



やまざき あつし
山崎 篤史

生年月 1982年8月島根県生まれ
最終学歴 2007年神戸大学大学院自然科学研究科建設学専攻修士課程修了
業務経歴 2007年㈱竹中工務店入社
2008年広島支店設計部
2012年大阪本店設計部
●担当した主なプロジェクト
2012年 寺岡整形外科病院
2012年 Kビル
2016年 川崎医科大学総合医療センター

■青年技術者のことば

建築を考える時、はじめに“人と人、人と環境との幸せな関係”をイメージする。「こんなふうを感じてもらいたい」「こういう景色を見せたい」「こんな人たちに来て欲しい」そんな関係性をつつむ建築を考え、スケッチを描き、模型をつくる。そして、実際に建築として具現化するために構造・設備の設計者や施工者など、たくさんの技術者と一緒に「どうやってつくるか」「どうやったら無駄がないか」と色々な話をし、設計を進める。そうすると、ふと、もとのイメージから遠ざかっているのではないかと不安になる時がある。そういう時はもう一度、「理想」に立ち戻る。これを繰り返す中で「技術」をバネにして「理想」がジャンプする瞬間がある。この瞬間が楽しい。『「技術」だけでは建築や都市はつukれない。その傍らには「理念」が必要だ。』と恩師に教わった。設計を10年やってその意味がわかってきた。経験を積むなかで「技術」は徐々に身につけてきたように思うが、だからこそ“人と人、人と環境との幸せな関係をつくる”という私にとっての理念を忘れず、これからも「理想」と「技術」の振幅を楽しみながら設計を続けていきたい。

■すいせん者

大平滋彦
㈱竹中工務店 大阪本店
設計部 第4設計部長



寺岡整形外科病院

増築の繰り返しによって迷路化していた病院を、同一敷地内で整理・再編したプロジェクト。既存病院は複数の建物が建て込んでおり、窓が小さいため光に乏しく暗い印象であった。そのため「自然の光を患者、スタッフ皆で共有する病院」をコンセプトとし、国道から大きくセットバックして建物を配し、格子状の柱梁架構によって直射光を制御しながら大きな窓から自然光を採り入れた。また、プライバシー面から窓がとれない診察待合にも、断面操作によって間接光を導き、その空間につながる診察室や処置室にも天窓や高窓を設け、光のうつろいを皆で感じられる空間を実現した。



Kビル

ある企業の営業所兼独身寮である。この建物は1階が倉庫と駐車場、2階がオフィス、3階が独身寮という階構成となっており、1階は雨天でも荷積作業のできるピロティ、2階は床面積を最大化する跳ね出し形状、3階はプライバシーを守るバルコニー形状としてそれぞれの機能に最適なカタチを積層させたデザインとした。質実剛健な企業イメージに相応しい建物として、素材を絞り、材料の厚みや重量感を丹念に操作することで、端正で力強い建築を目指している。



川崎医科大学総合医療センター

総合病院と教育機能を併せ持つ、約8万㎡の大規模医療建築である。岡山市内中心部にあった小学校の跡地を計画地とすることから、元の校庭部分は公園として整備し、校舎があった部分だけに高層・高密度な建築を計画した。ここでは、南側の「公園」に対して開いた建築としながら、建物内にも「公共の場」「癒しの場」としての「公園＝屋上庭園や憩いの場」を立体的に内在させ、それらをつなぐ通路空間を「まちの通り」として位置づけることで、大規模医療建築でありながらも地域に根差した病院としての公共性と親密感を付与した。

